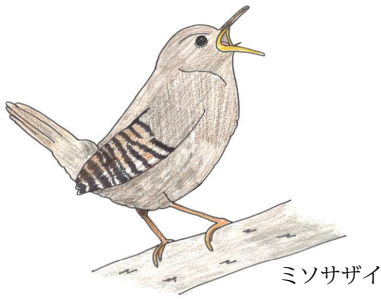
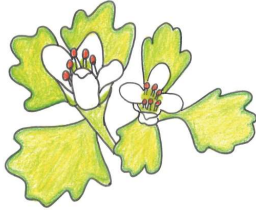


『ミソサザイ』

片柳 茂生



ミソサザイ



ハナネコノメ

イラスト：御岳ビジターセンター解説員

巣を家の軒下などでよく見かけましたし、華やかな囀りも集落内で良く聞くことができ、この声で朝目覚めるなんてこともありました。どちらも最近少なくなっただけで、この声で朝目覚めるなんてこともありません。

原因は何でしょうか。卵や雛を食べる動物が山に居ついてしまったのか？例えば野良猫、それともアライグマ？いやちよつと考えづらいですね。それとも巣を作る場所が少なくなっただけで、この声で朝目覚めるなんてこともありません。ただ環境が変わってしまった集落内では住み辛くなったと言う事でしょうか。この原稿を書くにあたってちよつと調べたところ、驚いたことにこのミソサザイ、いつの間にか東京都多摩地域では準絶滅危惧種に指定されていました。あの華やかな囀りを聴くことが出来なくなってしまうたら悲しい限りです。でもご安心ください、神社の奥庭ロックガーデンはミソサザイが暮らすための良い環境が整っています。集落内では残念ながら少なくなってしまうかもしれませんがロックガーデンなら大丈夫、いつ行っても気軽に迎えてくれることでしょう。

清流の傍らに咲くハナネコノメを愛でながら、聞こえてくるのは谷間に響くミソサザイの声、これが早春のロックガーデンでの最高の楽しみ方ですよ。

皆さん、「春が近いな」とか「春が来たな」なんて感じるのってどんな時ですか？フキノトウが土から顔を出した、庭や公園の梅がほころんだ、春一番が吹いた、溪流釣りが解禁になった、杉花粉で鼻がムズムズしてきた、など各々でその感じ方に違いはあると思います。野鳥の囀りも春の兆しと思われ方は多いのではないのでしょうか。

春を知らせる鳥としては鶯を誰もが一番に挙げると思います。なんて言ったら鶯の別名は「春鳥」「春吉鳥」「花見鳥」、など春にまつわる名ばかりです。でも御岳山で鶯の声が聴こえるのは三月の中旬、それよりずっと早く二月上旬頃に囀り始める鳥がいるの

です、それがミソサザイです。この鳥の囀りを聞くと、「お、春だな」なんて感じるのには私だけでしょうか。ミソサザイ、漢字で書くと「三十三才」、体長は十センチ程でキウイタダキと並んで日本最小の鳥ですが、その小さな体の割には声が大きく、高音の大変に良く響く声でしかも長く鳴きま

あとがき

新型コロナウイルスの情勢も、ようやく一筋の光明が見えてきたように存じます。以前の生活に戻れるまで今一歩、といったところでございましょうか。ところで「以前の生活」を覚えていまずでしょうか。道ゆく人のお顔にマスクはなく、「ソーシャルディスタンス」など意識したこともなかった頃のことです。感染の流行から四年経ちますが、ずいぶん昔のことのように感じられます。人々が他人との関わり合いの重要性を忘れてしまう前に、不安なく皆が笑顔で語らうことができるような日が来ることを、切に願ってやみません。

最後に、この半年間を無事に過ごせたことを御嶽大神に感謝し、毎年丁寧に教授下さる先生方、ご奉納頂きました皆様、各種祭典や行事に御協力・御協賛下さいました崇敬者の皆様、各所関係機関の皆様、御礼申し上げます。また、写真家・鶴巻育子様、玉稿を有難うございました。(馬場慶太郎)

令和五年 三月二十日発行

(年二回発行・非売品)

編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四二八(七〇) 八五〇〇

FAX 〇四二八(七八) 九七四一

http://www.musashimitakejinja.jp/

印刷 (株)成和印刷

武蔵御嶽神社 公式SNS



facebook



instagram